



料紙箱

33 琉球塗料紙箱・硯箱

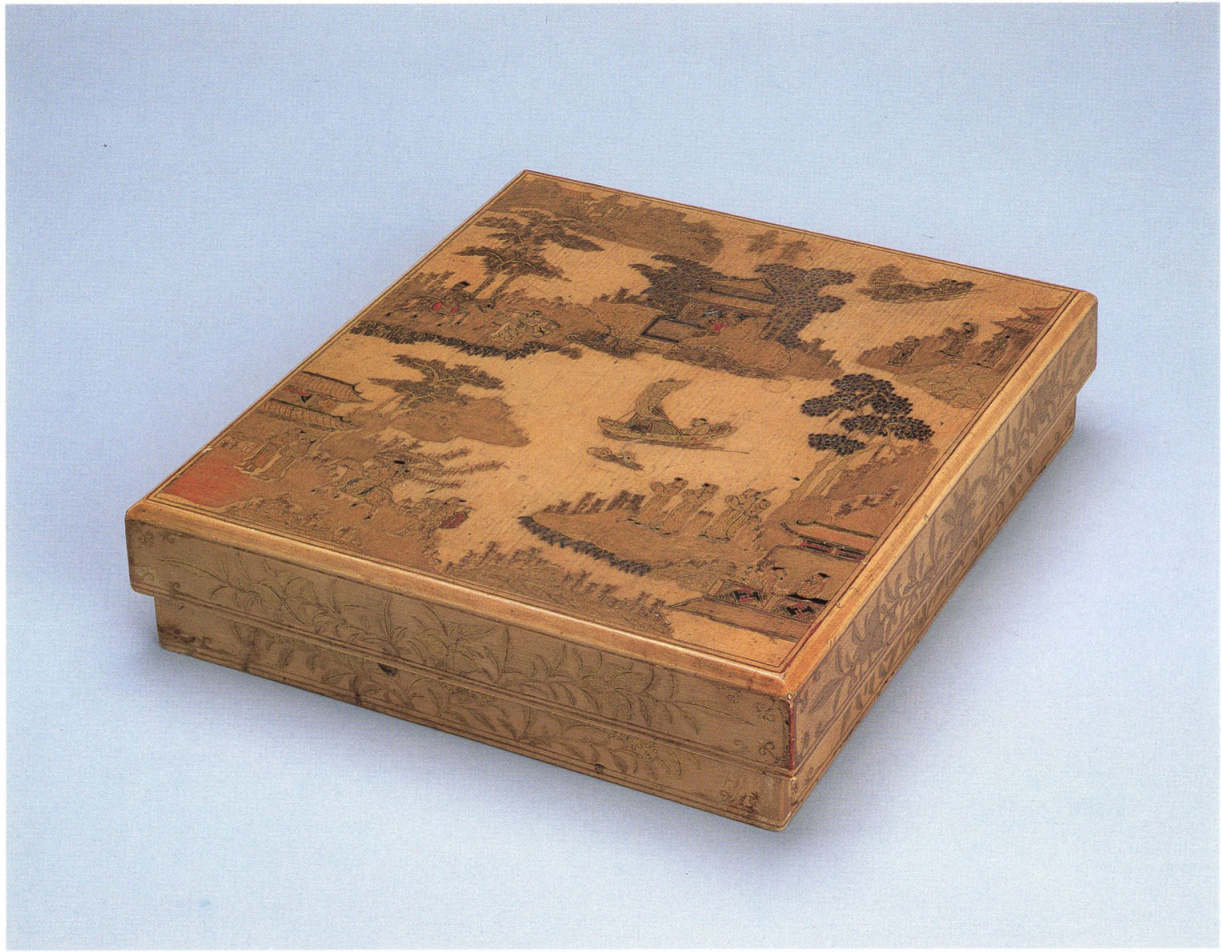
一具

木製漆塗 江戸時代(十七世紀)
 (料紙箱)縦三〇・〇 横三九・七 高一五・八
 (硯箱)縦二四・六 横二二・四 高五・五

江戸時代後期の桂別業内の飾付御道具の中に、必ず登場している料紙箱と硯箱である。近世の大名婚礼道具に則った一具であるが、琉球漆器であり、料紙箱が横長である点に特色がある。

いずれも表面を白密陀塗とし、蓋表の山水楼閣人物図を主題として、各意匠を朱・緑・黒色などの各色の漆絵と箔絵の技法の併用によって表している。山水楼閣人物図には、囲碁や舟遊び、耕作や牛耕、漁労、狩猟などの生活労働の様子が表されていて面白い。また料紙箱蓋表には宝尽や蝶、竹などの折枝を、硯箱の蓋表と身側面には桃などの果実の折枝が表されており、全体を吉祥の意匠ととらえることができる。

日本本土の伝統的調度の品に、琉球独特の技法と意匠で装飾したこの品は、本土から注文するなどの特別な配慮のもとで制作されたものではないかと考えられる。



硯箱



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

旧桂宮家伝来の美術——雅と華麗

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.13

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 大塚巧藝社

翻訳 鶴岡厚生

発行 宮内庁

平成八年九月二十一日発行

© 1996, Museum of the Imperial Collections